

# 初めての国際学会参加

電電子H23 森澤 由香



## 研究概要

私の所属する松本研究室では、主にパワー半導体に関する研究を行っています。パワー半導体はCO<sub>2</sub>削減に有効なキーデバイスであり、注目度も高まっています。パワー半導体デバイスに特化した研究室は世界でも珍しく、日本には九州工大にしかありません。多くの企業が力を入れている分野で、研究課題も多く更なる広がりが見込まれています。

私の発表した論文は「Design guideline of a thin-film SOI power MOSFET for high thermal stability」であり、高温で安定的に動作するパワー半導体の設計指針を示しています。

す。本技術によりパワー半導体デバイスの適用領域の多様化が実現できます。

## 学会概要

今回参加した学会はイタリア（カリアリ）で開催された国際学会23rd European Symposium on Reliability of Electron Device, Failure Physics and Analysis (ESREF)です。ヨーロッパ有数のバカンス地として知られるカリアリは、サルデー



ウェルカムパーティー

ニャ島の州都としての華やかな中心街・海に面した閑静なホテル街を持つ正に南国といった雰囲気のホテルでした。時間に厳しくなく、海鮮類も美味しいバカンスのための島といった印象です。

ESREFはマイクロエレクトロニクスの品質及び信頼性に関するシンポジウムです。登録者330名、口頭発表88件、ポスター発表は48件でした。

## 研究発表

題目通り初めての国際学会だったので、何もかもが目新しく、緊張のし通しでした。

発表は20分間の口頭発表で聴講者の方も多く、学会期間中に知り合った方々も足を運んで下さいました。研究成果の発表は足が震えるほど緊張してまともにアイコンタクトも取れないほどでしたが、序盤を過ぎればどうにか練習の成果を出すことができました。一方で、質疑応答の場面では想定された質問以外の指摘を受け、考えを上手く英語で話すことができませんでした。様々な国の専門家の方たちとコミュニケーションが取れたことは自分にとってのプラスでしたが、自分の考えを英語で表



発表会場の様子

現することについては今後も精進していきたいと思っています。

## 最後に

国際学会参加にあたり、奨学金を援助していただいた明専会、並びに実験・論文執筆・発表に対してご指導いただいた松本教授と大村教授、研究室メンバーに心よりお礼を申し上げます。

この貴重な経験を今後の学生生活・社会人生活で生かすとともに、国際人として活躍できるよう研鑽を積んでいきたいと思っています。

(富士電機株)

(平成24年11月記)